

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

冬の寒さが少しずつやわらぎ、春の足音が近づくこの季節、皆さんのご卒業をお祝いできることを、私たち教職員一同、心から嬉しく思っております。

さらに、この場を借りて、卒業生の皆さんを支えてこられた保護者の皆さまにも、深い感謝とお祝いを申し上げます。お子様の成長を見守り、支え続けてこられたそのご尽力に、心から敬意を表します。

さて、卒業生の皆さん、厳しい冬が終わり、希望に満ちた春が始まる、その瞬間を迎えるように、皆さんもまた新しい一步を踏み出す時が来ました。

様々な思いで国際パシフィック名古屋校に入学してきたことと思います。

寒い冬に耐える木を想像すると、高校生活は、じつくりと力を蓄える期間だったのではないでしょうか。学校が変わろうと心に決めた日、初めて国際パシフィック名古屋校を訪れた日、苦手な教科のレポートに取り組んだ日々、先生に声をかけた日、友達を作った日、面接の練習をした日、勇気を出してたくさんの試練を乗り越えましたね。そんな冬が終わり、笑顔で学校に來られた日もあったのではないのでしょうか。冬を乗り越え、春が來た時には、その蓄えた力が芽となり、花となって咲き誇るのだと考えます。まさに今、皆さんはその花を咲かせようとしています。

皆さんはどんな花を咲かせるのでしょうか？

私は皆さん一人一人が咲かせる花を楽しみにしています。

春を迎えるために必要になるのは、温かな日差しを届ける太陽です。

皆さんにとっての日差しは、近くで見守ってくれている保護者の方です。

どんな時でも、ずっと皆さんに温かな日差しを届けようとしてくれています。

雨の日は雲の上から、夜になっても地球の反対側から、光を届けようとしてくれています。

皆さんは一人ではありません、必ず見守ってくれている人がいる、そう信じてください。

これから進んでいく未来には、また冬のような困難が訪れるかもしれません。

そんな時は、今日の日を思い出してください。力を蓄え、花を咲かせる準備だと思えば、その困難にも向かい合うことができるはずです。

改めまして、保護者の皆様、ご子息様のご卒業おめでとうございます。

子どもたちがこの世に生を受けたその瞬間を今でも鮮明に思い出せるように、今この瞬間も鮮明に思い出すことができる日となるのではないでしょうか。

元気に生まれてきてくれれば、あとは何も望まないと思いつつ、成長とともに様々な期待をし、時に厳しく当たることもあったのではないかと考えます。

それもすべては愛情を持っていればこそだと思います。

先ほど卒業生に伝えました通り、寒い冬にこそ親の愛情は必要です。今までもそうであつたように、熱すぎると感じられても、諦めず注ぎ続けてください。

その熱は必ず伝わり、春を迎える力になります。

これから一番近くで、愛情を注ぎ、素敵な花を咲かせる一助となってください。

そして、一番近くでどんな花が咲くのかを見守り楽しんでください。

さて教職員の皆様、卒業生は笑顔に満ちていますか？

皆さんの精一杯の愛情で卒業生は今日を迎えることができました。

大切な日と一緒に迎えることができる喜びと、少しだけ肩の荷が下りた感じがするのではないでしょうか。

もう少しだけこの素敵な時間を共に過ごしつつ、

式が終わりその瞬間を迎えた時には、新しい世界に踏み出す卒業生の背中を押しましょう。

本当にお疲れ様でした。

卒業生の皆さんには伝えたい言葉が山のようにあります。

まだまだ終わりを迎えたくありませんが、時間には限りがあります。

最後に一つ、感謝の気持ちをもって、それを言葉にしてください。

皆さんのその言葉は、周りの人を幸せにします。

その幸せは、必ず皆さんに戻ってきます。

幸せの連鎖を皆さんから作ってください。

ということで、卒業生の皆さん目を閉じてください。

心の中で大切な人に「ありがとう」を伝えましょう。

後ろで見守ってくれる大切な人に、今日は来られなかった大切な人に、ありがとう、と伝えてください。

はい、ありがとうございます、目を開けてください。

必ず伝わっていると思います。

改めて、卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。

そして、これからの新しい旅立ちに幸多きことを祈っています。

2025年3月14日

精華学園高等学校 国際パシフィック名古屋校

校舎長 吉田征史